

# 自治会活動事例集

平成30年度版



那須塩原市自治会長連絡協議会

那須塩原市



## ★はじめに★

この『自治会活動事例集』は、市内の自治会の様々な活動を紹介することにより、今後の自治会活動の参考として活用していただくことを目的として那須塩原市自治会長連絡協議会と那須塩原市が共同で作成しました。

防犯、防災、福祉、各種交流事業など、様々な活動を掲載しています。それぞれの自治会において、新たな活動に取り組むヒントとしてぜひご活用ください。

最後に、『自治会活動事例集』の作成にあたって、情報提供や取材協力などご協力をいただきました自治会長の皆様に深く感謝申し上げます。

## ■目次

1. 「みんなで歌いましょう」「自主防災会避難訓練」(中央町自治会) . . . P1
2. 「黒七フリマ」(黒磯七区自治会) . . . P2
3. 「新年会」「給食宅配事業」(豊浦中町・上豊浦3-1自治会) . . . P3
4. 「バレーボール大会」「子供安全見守り隊」(豊浦南町自治会) . . . P4
5. 「みんなで建てた自治公民館」「婦人部文化祭」(新緑町自治会) . . . P5
6. 「歩け歩けレクリエーション」「資源ごみの回収」(松浦町自治会) . . . P6
7. 「若草町自治会だよりの発行」「若草町自治会バスツアー」(若草町自治会) P7
8. 「高齢者と子どもたちの事業」「健康講話&防災・交通安全教室」  
(若松団地自治会) . . . P8
9. 「環境美化活動」「高齢者交流事業&団地お楽しみ会」(緑ヶ丘団地自治会) P9
10. 「稲村まつりへの参加」「ボウリング大会」(美原町自治会) . . . P10
11. 「越堀秋まつり」「避難訓練」(越堀自治会) . . . P11
12. 「ふれあい体育祭」「方京子どもを守る会」「自主防災会」(方京自治会) . . P12
13. 「おたのしみ祭り」(新朝日自治会) . . . P13
13. 「運動会」「資源ごみ回収」(下永田自治会) . . . P14
14. 「大運動会」「秋祭り」(三区町自治会) . . . P15
15. 「文化活動(ますつかみ・もちつき)」「社会福祉活動(友愛訪問・げんきかい)」  
(石林自治会) . . . P16
16. 「上井口温泉神社祭り(高齢者・子供交流会)(自主防災訓練)」  
(上井口自治会) . . . P17
17. 「防犯・防災活動」「地域福祉活動(百歳体操)(子育てサロン)」  
(西三島自治会) . . P18、19
18. 「世代間交流事業」「高齢者会食事業」(南赤田自治会) . . . P20
19. 「自主防災会による防災訓練」「地域ふれあい福祉活動」(北赤田自治会) . P21
20. 「秋祭り」「防犯・防災活動」(上赤田自治会) . . . P22
21. 「高柳自治会交流会」「廃品回収」(高柳自治会) . . . P23

## 中央町自治会

- ◆自治会長：城下 一郎
- ◆加入世帯数：83世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：黒磯地区
- ◆特徴：駅も近く、学校、病院、スーパーにも近い住むには便利な地域。昔から住んでいる人が多く、お互い顔見知りです。穏やかで静かな町。「少子化・高齢化」が進んでいる地区。

### 中央町みんなで歌いましょう♪

中央町の皆さんが歌を通して交流する「みんなで歌いましょう」は、平成27年6月の第1回目以降、年に4～5回開催され、恒例事業となっています。町内の皆さんが自治会長宅に集い、懐かしい唱歌や童謡などをキーボードの生伴奏に合わせて元気に歌います。歌のほか、口腔体操、音楽に合わせた手足の体操や頭の体操も行います。

参加者は年々増え、平成30年度は、19名となっています。その他、地区内から運営のお手伝いの方も参加してくれており、一緒に活動しています。

「みんなで歌を歌いましょう」は、歌を通じた交流や健康増進のほか、欠席の方からの連絡をいただいたり、当日欠席者がいればその方の様子を見に行ったり、見守り活動にもなっています。

15回目の開催となりましたが、恒例行事として続いているのは、都合の良い時に無理のない範囲で開催していることだと思います。



参加者の皆さんも、毎回、この行事を楽しみにしてくれており、大きな歌声と笑顔で溢れています。『集って笑う』ことが地域の元気につながると考えています。

### 自主防災会避難訓練 (運営事業補助金活用事業)

毎年、5月と11月に自主防災会避難訓練を開催しています。平成29年5月の防災訓練は、5月28日（日）に開催し、平成22年に自主防災組織を立ち上げてから、13回目となりました。

当日は、消防署の職員に講師をお願いし、「AEDの取扱い」、「消火器の取扱い」について指導を受けました。

また、各家庭で「無事」の小旗を掲げたり、避難者カードを使用して避難状況を取りまとめたりしています。心配な住民の安否確認も行っています。

その他、給水給食班が炊き出しとして、「けんちんうどん」を作り、皆でおいしく食べました。

「顔見知りを作っておくことが災害時に一番役に立つ」という考えのもと、普段から、積極的に町内のいろいろな行事に参加するよう声かけを行っています。



## 黒磯七区自治会

- ◆自治会長：小泉 信三
- ◆加入世帯数：417世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：黒磯地区
- ◆特徴：黒磯地区で鍋掛地区に接するエリアで、農村地区と県道沿いの商業地域。そして中間に新興住宅地との三層構造の自治会。加入世帯数は微増であり、加入率は70%。

### 黒七フリマ

6月から11月まで、毎月1回、地元のお店の駐車場を借用し、フリーマーケットを開催しました。このフリーマーケットは、黒磯七区自治会会員家庭の不用品等の交換を通して、親睦・交流を図ることを目的としています。また、黒七フリマの利益の一部は、黒磯七区自治会に寄付していただくことで、自治会の財政の活性化も図っています。

また、同時に各家庭にアルミ缶の回収を呼びかけ、特に子ども達が持ってきた場合は、アルミ缶30個で地域こども通貨『1 クローナ』をプレゼントしています。その『クローナ』は、自治会がとよورا夏まつりやとよورا公民館まつりに模擬店を出店する時に、1 クローナ=100円で利用できるとしています。集めたアルミ缶は、アルミ缶回収事業を実施している豊浦小学校へ寄付し、豊浦小学校の活動資金の一部にしてもらっています。



黒七フリマの記念すべき第1回目は、平成29年6月11日、那須塩原市の特産品である牛乳で乾杯をしてスタートさせました。会場は、県道に面した協力店の駐車場を借用、開店前の時間をフリーマーケットの時間としました。フリーマーケットの開催は、『黒七だより』（自治会通信）の回覧とポスターを近隣の店舗に貼ってもらうことで広く周知しました。また、PR用の桃太郎旗を5枚作成し、金曜日からお店の駐車場に置かせてもらい周知しました。

フリーマーケットに出店できるのは、黒磯七区の住民、子どもたちも保護者同伴で出店することができるようにしました。

フリーマーケットの売り上げの10%（自己申告）を黒磯七区自治会に寄付することになっていて、合計で4万円以上の寄付がありました。

また、同時に回収しているアルミ缶も3,800個以上回収することができ、小学校に継続的に寄付を行うことができました。

#### 【黒七フリマの成果】

黒七フリマの成果としては、次の点が挙げられます。

- ①家庭菜園などで収穫した野菜の出品が多く、自治会員の趣味の延長上でのふれあい活動ができたこと
- ②各家庭でいらなくなったものを出店することで家の中が片付くと共に自治会内の必要な人に安価で提供できたこと。
- ③出展者、参加者の交流により自治会内で知り合う機会が増えたこと。
- ④子どもたちも親と出展するなど、自治会の一員として行動できる機会を持つことができたこと。

#### 【今後の展望】

今後は、黒磯七区自治会の年間事業に位置付け、実行委員を自治会役員や班長の分担制にして、負担の分担化と体験者の増加を図りたいと考えています。

## 豊浦中町・上豊浦 3-1 自治会

- ◆自治会長：薄葉 三郎
- ◆加入世帯数：114 世帯（H30.4.1 現在）  
※自治会協力金による世帯の一部も含む
- ◆自治会のエリア：黒磯地区
- ◆特徴：一人暮らし、高齢者が多く、地域も狭く、自治会加入者は少ない。行事への理解があり、協力的である。

### 新年会

毎年、会費制の希望者で新年会を開催しています。ここ数年、参加率が大変良く、楽しみに待っている会員も多い行事です。

新年会には、毎年多数の参加があり、参加者同士の会話やカラオケで大いに盛り上がります。「新年会がこんなに楽しいと思わなかった。毎年参加します」との参加者からの声もあり、新年会は、地域・班の繋がりに最適な行事であると考えています。

毎年、新年会の場で、市・県・国レベルの各種受賞者のお祝いをしており、記念品を贈呈し、地域の誇りとして慰労会を実施しています。

また、受賞した方々や地域で活躍している子供たちの情報を広報誌にまとめ、自治会内に回覧しています。

新年会の他にも、旅行なども実施しており、諸行事にできるだけ多くの参加者があり、親睦を深め、地域の繋がりをより広めていくことが自治会活性化へのスタートなのではないかと考えています。



### 給食宅配事業

2カ月に1回、希望する高齢者宅に、自治会員が調理した温かいお弁当を届ける給食宅配サービスを行っています。

1人暮らしや高齢者が多い町内、行事にも参加できない状況で地域での交流も希薄になりがちです。そのような方のために、会話・安否確認を含めた高齢者対象の見守り活動です。

この事業は、平成27年からスタートしましたが、地区内在住の8名の社会福祉協議会の給食ボランティアの方の協力を得て、スムーズにスタートすることができました。給食の調理は、毎回、厚崎公民館で行っています。

2カ月に1回のため、利用者へは20日位前に回覧にて実施日を通知しています。とてもおいしいと好評で、宅配を心待ちにしている方もいるため、できれば毎月実施したいのですが、予算の都合上実施は困難な状況です。1食200円をいただき、残りは、社会福祉協議会補助金、自治会負担で運営しています。



### 自治会加入促進の取り組み

転入者には、自治会の総会資料を持参し、わかりやすく説明しています。また、アパートなどの場合は、入居前に管理会社の担当者に会い、加入をお願いしています。（このところ加入者はなし）町内の全アパート入居者から「自治会協力金」をいただいています。

## 豊浦南町自治会

- ◆自治会長：菊地 慶吉
- ◆加入世帯数：255世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：黒磯地区
- ◆特徴：昔からの農村地帯で農家が集落を形成。昭和40年頃、大手のタイヤ工場の進出に伴い、住宅が急増し、最近では大手のマンションや格安建売住宅が増加。しかし、地区内には商店・飲食店がない珍しい地域。また、バス停が1か所もなく、不便を感じることもあり。

### バレーボール大会

毎年6月に地区内の融和を図ることを目的に、自治会内12班による班対抗ソフトバレーボール大会を開催しています。

この事業は、20年以上続いています。参加チームや入賞チームには報奨金を出すなど工夫をしていますが、近年は、参加するチームも減少し、若い世代の参加も減ってきており、今後の継続が困難状況になっています。

### 子供安全見守り隊

子どもの登下校時に危険個所に立ち、見守り・声かけ活動を行っています。

地区内で登校班が道路を横断する箇所など、朝夕、4箇所で見守りを行っています。下校時は、数名の方が学校まで迎えに行き、一緒に歩いて帰っています。

当地区では、20年以上前から有志の方が個人で登下校の見守り活動を実施していましたが、平成19年11月に「子供安全見守り隊」を組織しました。組織化当初、地区内の世帯に対し回覧により呼びかけを行いましたが、賛同者が誰もいないという状況でした。当初は自治会長が一人で活動を開始し、徐々に賛同者が増え、現在は8名で活動を行っています。見守り隊は、高齢者が多く、今後は児童の保護者の活動も望めます。

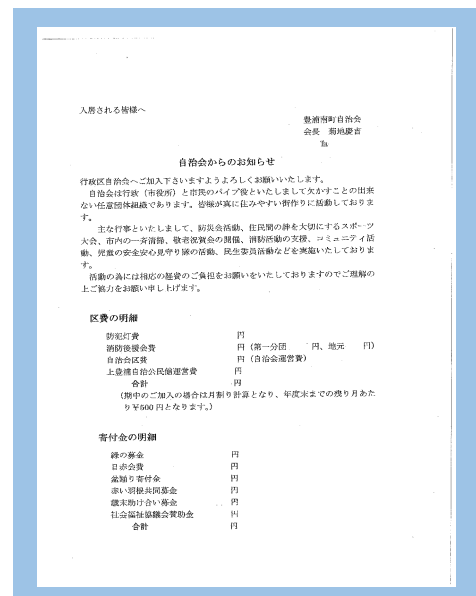


【↑道路の横断を見守ります】

### 自治会への加入促進のための取り組み

地区内で、建売住宅が急増しています。当自治会では、建売業者と早い時期に接触し、自治会の実情（自治会費を含め）を明記した依頼文をお願いし、入居を確認次第、自治会長自ら積極的に入会を勧めています。新規入居者からの入会を待っていても加入は難しいと思います。

現在、新たにできた建売住宅に入居した世帯は100%自治会に加入しています。



【↑自治会加入の案内文】

主な行事や自治会費などを案内しています

## 新緑町自治会

- ◆自治会長：安宅 勝
- ◆加入世帯数：190世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：黒磯地区
- ◆特徴：40年前は農家が10戸ほど点在していましたが、その後分譲され、若い人たちが住む住宅地が急増しました。

### みんなで建てた自治公民館

以前まで新緑町には自治公民館がありませんでした。しかし、平成23年、多くの方の協力を得て、自前の自治公民館を新設することができました。

町内の方から用地を提供していただき、自治会予算からの支出の他、特別協賛金として広く寄付を集めて建設が決定されました。

建設作業は、ほとんど専門の業者に依頼せず、自治会加入者のボランティアで行いました。町内には建築や土木関係の職人が複数いるため、その方々の指示のもと、住民が協力して作業を行いました。

建設が具体化してから3年、一人のけが人も出さずついに完成の日を迎えました。完成を祝して、ご尽力、ご協力いただいた方々を招待し、落成式を盛大に行いました。

自治公民館が完成してからは、自治会の行事はますます多様化し、充実しています。今や、なくてはならない憩いの施設となっています。



## 婦人部文化祭

3月、自治会婦人部が中心となり、新緑町自治公民館にて「文化祭」を開催しました。

自治会内のみなさんや、小学生、保育園児による絵画や手芸、習字などの作品を展示します。その他、焼き鳥、炭酸まんじゅう、けんちんうどんなどの模擬店の出店、一品即売、年ごとにテーマを決めての企画展示といった、学校さながらの文化祭です。

みなさん、これぞとばかりに自慢の作品を持ち寄ります。「あの方、こんな趣味があったの!」と驚くことも多いです。出店の食べ物は、婦人部や自治会の役員が、早朝から張り切って準備をしました。

毎年開催している恒例行事で、平成29年度で25回目を迎えました。毎回、他の自治会からも多くの見学者が来ています。



### 自治会への加入促進のために

転入者には、自治会加入者のメリット等を記載した自治会の概要書と配置図を配布し、加入の促進を図っています。その際に、通学路やゴミステーション等も併せて説明しています。

## 松浦町自治会

- ◆自治会長：高山 綾子
- ◆加入世帯数：205世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：黒磯地区
- ◆特徴：昔からの住宅と新しい住宅が混在する住宅地。合言葉は『住んでよかった松浦町』

### 歩け歩けレクリエーション （防災訓練&バーベキュー大会）

5月21日（日）に、歩け歩けレクリエーションとして防災訓練及びバーベキュー大会を開催しました。

当日は、班ごとにそれぞれの一時避難場所に集まった後、午前10時に松浦町自治公民館に集合。消防署員より消火器の使い方、人工呼吸、AEDについての講習があり、実際に体験しながら救命救急の方法を学びました。

その後、給食・給水班による炊き出し訓練、それ以外の参加者は、避難誘導訓練に参加しました。避難誘導訓練では、自治会の防災パトロール隊先導のもと、自治公民館から市指定の避難場所になっているくろいそ運動場まで約1.5kmの道のりを歩いて移動しました。

避難誘導訓練の参加者が自治公民館に戻ってくると、炊き出し訓練を終えた給食・給水班の参加者がお出迎え。最後は、全員で昼食を兼ねた炊き出しのおにぎりを食べながら、バーベキューを楽しみました。

防災訓練とバーベキューを組み合わせ、『歩け歩けレクリエーション』としたことで、毎年参加者が増えて、防災意識が高まってきています。大人だけでなく、幼児・子どもや高齢者も喜んで参加しています。



【↑ 避難誘導訓練の様子】

### ごみ減量への高い意識

年6回、偶数月の第3または第4日曜日の朝8時から資源ごみの回収を行っています。役員や班長など20名ほどが参加します。軽トラックと普通車で町内を回り、ビンや缶、古紙、紙パックなどの資源ごみを回収します。その後、自治公民館に集め、業者に引き取りに来てもらいます。

引き取りで得られたお金は、全額自治会の収入に組み入れています。

その他、児童の登下校時に月2回行っている防犯パトロール活動のうち1回は、町内を回って歩くパトロールに合わせて、道路のごみ拾いも実施しています。

こうした活動を通じて、ごみに対する意識が変わり、ごみの減量につながっていると思います。



### 自治会活性化のために

上記の事業のほか、健康体操教室、生きがいサロン、バス旅行、いきいき百歳体操、朝のラジオ体操、出前講座などを行っています。



# 若草町自治会

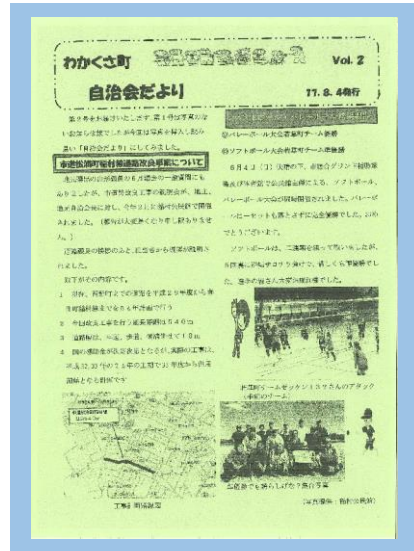
- ◆自治会長：相馬 重富
- ◆加入世帯数：352世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：黒磯地区
- ◆特徴：昭和40年代半ばから、住宅が建ち始めた比較的新しい住宅地であるが、現在ちょうど世代交代がなされている地区である。

## 若草町自治会だよりの発行

平成29年度から初めて「若草町自治会だより」を発行しました。年間5回程度の発行を予定しています。

自治会だよりでは、総会について（予算、事業、役員など）、自治会事業の参加募集、事業結果報告のほか、町内の公共施設や道路の整備計画の概要など、住民の皆さんが生活していく上で必要な情報を掲載しています。その他、班単位での要望の募集なども掲載しています。

自治会だよりは、創刊後間もないため、記事集めから編集、印刷と自治会長が行っているのですが、今後編集委員会のようなものも必要ではないかと考えています。



## 若草町自治会バスツアー

平成29年9月17日（日）に若草町自治会バスツアー「ぶどう狩りと歴史散歩」（足利市方面）を実施しました。この事業は、今年度が初めての実施です。自治会だよりにて開催のお知らせと募集を行いました。

バスツアーの実施目的は、世代間交流として実施しましたが、お年寄りや若い世代の参加があまりありませんでした。初めての実施ということで、若い世帯の子どもの参加をどうするかが問題になり、小中学生の参加は不可として、児童についてもバスの車中は保護者の抱っこできる範囲であれば参加を認めることとしたため、残念ながら参加が少なくなりました。来年度以降検討が必要であると考えています。



## 若松団地自治会

- ◆自治会長：瀬尾 順子
- ◆加入世帯数：140世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：黒磯地区
- ◆特徴：団地のため、入退去者の移動が激しく、世帯数も減少しているため自治会行事への参加者が少ない。若い世帯と高齢者世帯が多く、中間世帯が少ない。

### 高齢者と子どもたちの事業

地区内の高齢者と子どもたち及び保護者が、夏休みの一日、公園に集まって、一緒にダンスを踊ったり、スイカ割をしたり、室内でビンゴゲームなどをして交流を行いました。

当日は、まず最初に、レクレーションダンスを行い、子どもたちと一緒に高齢者の方たちも手をつなぎ、輪になって楽しくダンスを踊りました。高齢者の方たちは、日頃家の中にいて体を動かしていないので体がほぐれたのではないかと思います。一緒に踊っている姿はとても微笑ましく思えました。

そのあと、スイカ割をしたり、ビンゴゲームをしたりしました。最後に、記念品を交換して美味しいお弁当を食べました。

参加者のほとんどが核家族なので、孫のような小さいお子さんと一緒に遊んだり食事をしたりしている様子は、本当に楽しそうでした。

この事業では、世代の違う人達が集まり、ゲームをしたり、食事をしたり、世間話をしたりして、世代間の交流を図ることができました。また、参加したことによって、子どもの住まいがわかり、子どもたちの見守りにも役立つのではないかと思います。



### 健康講話&防災・交通安全教室

平成30年10月19日（金）に、高齢者健康教室と防災交通安全講話を開催しました。

高齢者健康教室では、稲村いたむろ地区地域包括支援センターの職員を講師に、介護予防に関するお話及び健康体操を行いました。

その後、若松駐在所の所長を講師に、防犯のお話と交通安全について学びました。オレオレ詐欺の話や高齢者の自動車運転の話など、実例をもとにわかりやすく話をしてくださいました。

その他、余興として、ハーモニカサークルの方の演奏に合わせて、参加者全員で秋の歌を歌いました。そして、フォークダンスサークルの方たちのダンスに合わせて体を動かしたり、参加者が輪になって一緒にダンスを踊ったりして楽しみました。



### 自治会運営の工夫

自治会の事業には、役員・班長の協力が必要ですが、ほとんどの方が仕事を持っているため、参加者が少ないことが悩みですが、平成29年度より協力員制度を設け、協力をいただいています。

## 緑ヶ丘団地自治会

- ◆自治会長：吉村 奉佳
- ◆加入世帯数：150世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：黒磯地区
- ◆特徴：県営団地の住民で組織している自治会。古い棟は建築から38～40年ほど経過していて、現在は少子高齢化が進み、入居人数も年々減少している。

### 環境美化活動

団地内のボランティア団体「ひまわり会」において、年3回程度、団地周辺の市道脇や公園に花の植え替えを行っています。自治会においても花代や肥料代などを助成し、一緒に活動しています。

また、日頃から各棟の住人自らがボランティアで枝の剪定や除草作業等を行っており、環境美化に努めています。

現在は、ボランティアで参加してくれる住人が少なく苦労していますが、根気よく声を掛けていき、協力を要請した結果、10人ほど集まりました。しかし、全員と一緒に作業を行うのは難しく、交代で作業を行っています。

今後の課題としては、ボランティア活動に参加してくれる人の人数を増やすことです。今年度の成果は65%くらい達成できたと思います。来年度は、80%を目標としていきたいと思っています。



## 高齢者交流事業&団地お楽しみ会

高齢者交流事業として、65歳以上の住人が集会所に集まり、一緒に食事をしたり脳トレ等をしていたりして交流会を実施しています。

交流会は、概ね月1回開催し、毎回15人程度の高齢者が集まります。交流会は、開始から2年目を迎え、団地内での認知度が上がってきています。今後もこの事業を継続していきたいと思っています。



団地住人のお楽しみ会は、住人間の交流を深めるため、年1回実施しています。例年、夏休み期間中に流しそうめんやスイカ割などをして楽しんでいます。

平成29年度のお楽しみ会は、高齢者交流事業の一環として12月に開催し、芋煮会とビンゴゲームなどを行いました。

お楽しみ会の当日は、雪まじりの天気で寒く、芋煮汁は最高でした。お楽しみ会のチラシを作成し、回覧で周知を図り、参加人数も大人37人、子ども15人と思っていた以上の参加がありました。



## 美原町自治会

- ◆自治会長：菅野 利春
- ◆加入世帯数：150世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：黒磯地区
- ◆特徴：子どもたちが育つまでの環境が整った地域

### 稲村まつりへの参加

稲村まつりは、毎年8月に稲村コミュニティが主催する稲村地区のおまつりで、各自治会が独自の模擬店を出して、子どもや大人に喜んでもらう祭りです。

美原町自治会として工夫していることは、誰でも参加できる『射的』『ヨーヨーつり』『くじ引き』の模擬店を出していることで、中でも射的の賞品は人気で（ラジコン）午後になると子どもたちが列をなします。

稲村まつりでの成果は、年々予算オーバーしていますが、参加者が増加して、活動の活性化の繋がっていることです。

課題としては、夏の暑い時期の為、熱中症対策が必要となっています。



### ボウリング大会

ボウリング大会は、毎年実施している美原町独自の行事です。ボウリング大会は、参加者全員に景品と食事が付き、その後の懇親会もあり、人気のイベントとなっています。

ボウリング大会でのお楽しみは、中身の見えない賞品で、点数が低い人でも高額な賞品が貰える場合もあります。

昨年の大会では、参加者が60名と多く、幼児や子ども、また高齢者の応援による参加者も何名かおり、参加者全員に景品を、また食事を選択でき、子どもから高齢者まで喜んでもらっています。

ボウリング大会は、3回目の実施となり、年々参加者が増えており、うれしく思っています。



### 自治会活動の中で工夫していること

自治会活動を活性化していくために工夫していることは、

1. 活動をする中で、必ず幼児から高齢者までの参加者を募ること
2. 回覧時には、活動（イベント）の内容を分かりやすく、具体的に入れるようにすること
3. 活動（イベント）する時は、参加者全員に参加賞を配布し、さらに幼児用の参加賞にも気を配ること
4. 地区の一斉美化運動の時に、特に子どもに参加するように促すこと

また、活動をするにあたり、できるだけ班長にイベントの内容を説明し、内容を把握した上で行動してもらっています。（イベント終了後はフォローしています）

高齢化に伴い、自治会長のなり手がいない中、後継者育成も必要であることから、できるだけ役員を含む班長も行動を共にするようにしています。

大切なのは、人と人との繋がり、健康の大切さ。懇親会の席での若者の30秒スピーチなどで交流を深めています。

## 越堀自治会

- ◆自治会長：松本 秀夫（H29）  
鈴木 正義（H30）
- ◆加入世帯数：62世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：鍋掛地区
- ◆特徴：宿場として栄えた集落で、狭い範囲に住宅が密集しています。

## 越堀秋まつり

越堀地区では、以前は自治公民館主催のお祭りを行っていましたが、集客力が弱く、資金も不足していました。そこで、「多くの人に集まってもらえる場を作ろう」という自治会長の意見に皆さん賛同してくださり、自治会、育成会、自治公民館が連携して、合同の大きなお祭り「越堀秋まつり」を平成29年度11月に初めて開催しました。

開催にあたっては、市社会福祉協議会の地域福祉推進事業補助金を活用しました。また、お汁粉に使うために巻狩用の大鍋を市商工観光課から借りました。

自主防災組織の避難訓練と同時に開催（午前中に避難訓練、午後にお祭り）したことで、3歳の子どもから90歳以上のお年寄りまで、100名以上の参加者が集まりました。

お祭りでは、子どもみこしや餅つきなどのほか、最後に餅まきやミカンまきを行いました。餅つきでは、臼や杵を見たことがない子どもたちも多く、実際に体験して喜んでいました。餅まきでは、大人も童心に帰って楽しんでいました。

参加者の多くから「楽しかった」「来年もやろうや」といった言葉をいただき、初めての開催にしては成功したと手ごたえを感じました。

平成30年度も、同様の内容で実施し、多くの参加者が集まりました。この事業が、地域の交流事業として定着するように今後も工夫していきたいと思えます。



## 避難訓練

越堀秋まつりの日の午前中には、自主防災組織の避難訓練を行いました。

越堀地区は、東日本大震災の際も屋根瓦が落ちる程度で大きな被害はありませんでした。そのため、安全・防災の意識が薄いことから、年1回の意識づけを目的に避難訓練を行っています。

防災用ベストを着用した班長の指示のもと、各班でそれぞれ集合場所に集まり、その後自治公民館に避難しました。公民館では元消防署員の方から防災についての講習を受けました。

防災倉庫の備品の確認も行いました。乾パンや非常用のご飯を子どもたちに配り、実際に食べてみることで災害に対する意識の向上を図りました。非常時の自治会の結束を確認し、最後は牛乳で乾杯をして締めくくりました。



## 方京自治会

- ◆自治会長：三本木 忠二（H29）  
横塚 光男（H30）
- ◆加入世帯数：483世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：東那須野地区
- ◆特徴：交通の利便性等から通勤通学の立地の恵まれた地域として少しずつ戸数が増加している。  
反面、自治会への加入率は減少傾向にある。

## ふれあい体育祭

地域内住民の相互の連携と融和、協調や地域への愛着心を培うため、毎年9月に、大原間小学校の校庭で「ふれあい体育祭」を開催しています。

ふれあい体育祭では、競技種目の中に、自主防災会活動の一環として、消火バケツリレーやけが人救出、搬送方法を教示するリレー種目を取り入れ、自主防災に対する意識の高揚と啓発に努めています。その他、参加者の年齢層に合わせた幅広い競技種目を取り入れる工夫をしています。

ふれあい体育祭は、回を重ねるごとに参加者も増え、年齢層も幅広く、子どもから高齢者までの参加により文字通り『ふれあい』が図られていると言えます。

このふれあい体育祭は、地域のつながりと連携を図り、団結心や協調性、地域力の向上、地域に対する愛着心を培うため、第27回目を数え、さらに今後も継続していきたいと思えます。



## 方京子どもを守る会

「方京子どもを守る会」では、地域内の児童の登下校時の安全見守り活動を実施しています。

子どもを守る会は、平成18年2月から開始し、当初15名程で活動を開始しました。年数の経過と共に、会員の高齢化等によりメンバーの入れ替わりもあったが、現在も同数の会員数で継続しています。

周辺地域の自治会でも同様の活動が盛んとなり、地区全体で安全安心な地域づくりが広がってきています。

方京自治会のスローガン『安心して暮らせる街、地域の絆と連携のある街づくり』に向けた活動が地区内全体の活動に広がればと思っています。

## 方京自治会自主防災会

方京自治会自主防災会では、災害時の対応に備え、自助・共助の啓発活動を行っています。

平成22年に自主防災会の発足以来、10月に自主防災会研修会を行い、消防署の指導で、AEDの使用方法などを学んでいます。

また、有事に備え、緊急連絡網を使った情報の連絡伝達訓練を行っています。日中は留守の家庭が多く、伝達しにくい事例があるが、訓練を繰り返し、有事に備えたいと考えています。防災無線等による情報が瞬時に一斉に伝わるシステム等があればよいと思えます。



## 新朝日自治会

- ◆自治会長：澁井 正美
- ◆加入世帯数：83世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：黒磯地区
- ◆特徴：住宅が密集しているが、最近は空き地や空き家が目立つようになってきている

### おたのしみ祭り

新朝日自治会「おたのしみ祭り」は、育成会と連携し、25年以上続くまつりです。今年度は、10月21日(土)に実施し、子どもみこしの町内巡回、食事会、ゲーム等を行いました。

自治会内への周知は、チラシを作成して回覧を行いました。今年度は、例年の会場が使用できなくなったため、自治会会員の皆さんの協力を得て、会場をお借りして実施までこぎつけました。



年々、子どもの数が減少しているため、大人も一緒にみこし巡回を行いました。

会場が屋外のため、天候に左右され、決行か中止かの判断に苦労しましたが、小雨の中、実施しました。



## 下永田自治会

- ◆自治会長：森谷 勇（H29）  
川島 勝子（H30）
- ◆加入世帯数：1261世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：西那須野地区
- ◆特徴：那須塩原市の西部地区に位置し、大田原市と隣接している。小学校、中学校、高校、支援学校があり、子育て環境や通勤の利便性から住宅が急増している。従来、明治時代の元勲の開拓の歴史を持つ地域。農業後継が世代交代時期と重なり、水田が住宅地に変容している。住宅の急増に伴い、病院や大型スーパーも増えている。そのため、従来からの居住者と若い世帯の交流のあり方、高齢者と若い人の交流、会員同士の交流などが問題となっている。

### 運動会

平成29年10月1日（日）に大山小学校の校庭で運動会を開催しました。約300名の参加がありました。

運動会は、地区内を班単位に5つに分け、得点を競い合います。開催にあたっては、班長会議を開催し、運営にあたっています。

例年、班長の家族は参加しますが、一般の会員の参加は比較的少ないのが現状です。班長によっては、運動会当日の朝に班員に呼びかけて、参加を促している場合もあるようです。この運動会は、地区内唯一の全体で集まれる行事ですが、地区が大きくなっていることから、次第に絆が薄くなっているように感じます。

参加者が増えるように、子ども向けの賞品や参加賞を用意するなど、賞品に工夫をしています。



### 資源ごみ回収

自治会の組織が分担して、年6回、資源ごみの回収を実施しています。小学校育成会2回、中学校育成会1回、長寿会2回、自治会執行部会1回、それぞれの団体が中心となって実施しています。

この事業は、年6回と長期に渡り行っていることと、集めた資源ごみが各団体の資金となることから、活発に行われています。特に、200人以上の中学校の生徒が、自転車で行きつけの家庭訪問し新聞紙を集める光景は、自治会と生徒会が一体となったすばらしい事業であると考えています。

長寿会の資源ごみの回収は、長寿会の役員が軽トラックで行っています。それぞれの家庭に貯めておいた新聞紙や段ボールを荷台一杯に運んでくる様子は圧巻です。

資源ごみ回収で得た資金の活用は、2ヶ月に1回の誕生会や1泊の温泉旅行に活用しています。





## 三区町自治会

- ◆自治会長：小島 米男（H29）  
山本 幸雄（H30）
- ◆加入世帯数：652世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：西那須野地区
- ◆特徴：分譲住宅が40年前頃から増えて、現在は農家と非農家の割合は、非農家90%となっている。自治会加入率は69%となっている。

### 大運動会

平成29年8月20日（日）に大運動会を開催しました。大運動会は、今回で52回目の開催となります。

大運動会は、自治会内の住民を対象に、玉入れや二人三脚など、幼児から高齢者まで気軽に参加できる種目で実施しています。

今年は、前日まで悪天候だったため、小学校の体育館をお借りして開催しました。連絡と準備をスムーズに行うため、屋外か室内かの判断を前日に行いました。

今年で52回目の運動会ですが、以前よりも参加者が減少していること、また、8月の開催なので、熱中症対策が課題となっています。



【玉入れの様子】



【二人三脚の様子】

### 秋祭り

平成29年10月9日（月・祝）に毎年恒例の秋祭りを開催しました。

当日は、子供神輿の練り歩き、子供相撲、輪投げなどのイベントと、交流広場で親睦を深めました。今年は、交流広場の席数を増やし、多くの方に座っていただけるよう工夫しました。余興は、地区住民の発表会の場にできればと考えています。



【↑子供相撲／子供神輿の様子】

## 石林自治会

- ◆自治会長：須佐 實
- ◆加入世帯数：575世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：西那須野地区
- ◆特徴：昔からの農家が墓沼用水路に面して固まって存在している。新興住宅地もたくさんあり、旧村と混在している。乃木神社と乃木将軍の別邸があり、当時の人は、かなりの影響を受けている。また、石林公民館やグラウンドも乃木神社から借用している。

### 文化活動（ますつかみ・もちつき）

毎年、夏休みの終わりに、鱒つかみと流しそうめんを実施しています。子どもと大人が一緒になって、鱒のつかみ取り、鱒の塩焼き、流しそうめんを食べて、人とのふれあいや関わりなどを体験してもらっています。

また、伝統行事として12月にもちつき体験を実施しています。もちつき体験は、文化部、体育部が中心となり、子供育成会、長寿会の協力をいただき実施しています。つきたての餅は、あんこ餅ときなこ餅にし、先着約200名の方に無料で配布します。餅のほか、けんちん汁も提供しています。

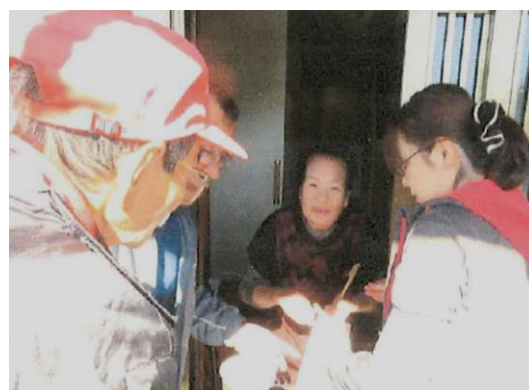


### 社会福祉活動（友愛訪問・げんきかい）

社会福祉活動として「友愛訪問」と「げんきかい」を実施しています。

「友愛訪問」では、高齢者（80歳以上）、障害を持つ人に年4回の給食サービスと見守り活動を行っています。

自治会内を4ブロックに分け、各ブロックにブロック長、ブロック内に10～13班あり、班長がいます。年4回の友愛訪問は、各ブロックが年1回担当することにより、全ブロック長、班長が担当することになり、全員が給食活動と見守り体験をすることができるようになっています。この見守り活動を通して地域力がついていくのではないかと考えています。



「げんきかい」は、高齢者（65歳以上）のネットワークづくりのため、元気体操・毎回違う催し・茶話会を年4回実施しています。

ストレッチ、簡易グラウンドゴルフで体を動かす、また、絵手紙教室、寄せ植え教室などを行って、最後に茶話会でネットワークづくりを行います。



## 上井口自治会

- ◆自治会長：斉藤 一清
- ◆加入世帯数：174世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：西那須野地区
- ◆特徴：昔からの住宅が減り、新興住宅が増えている。新たな居住者は自治会未加入が多い。

### 上井口温泉神社祭り

「上井口温泉神社祭り」は、毎年恒例の祭りで、10月に実施しています。

10月8日（日）の午後、今年の当番3班により、本格的なしめ縄作り、赤飯、お煮しめを作り、お酒でお祝いを行いました。



### 高齢者・子供交流会

上井口温泉神社祭りの午前の部として、高齢者から子供までの交流会を実施しました。

輪投げ、ビンゴゲームを行い、焼きそばやおでんを食べながら交流を図りました。

### 自治防災訓練

上井口温泉神社まつりの朝の部として、消火器の使い方を子供から大人まで訓練し、実際に消火をしました。



行事を行うときは、役員、班長会議で協力を依頼し、資料を回覧して参加を募ります。自治会員の参加は増えてきていますが、自治会未加入世帯がいかに参加をいただき、それが自治会加入のきっかけになるかが課題となっています。

### 自治会活動活性化について

自治会会員の中で、特に高齢者や分譲住宅に住む住民の自治会離れが多く、入会者も少ない状況です。

自治会未加入者の対策として、役員・班長会議で自治会の取り組み、メリット、デメリットを話し合い、自治会加入パンフレットを作成し配布しました。

また、自治会は、お互い様（互助）、共助の会、どうしたら自治会員を増やし、自治会費を減らせるかを役員・班長会議で話し合っています。役員・班長会議では、人を責めるのではなく、楽しくやることを意識付けしています。「なぜ？」の追求ではなく、どうしたら良くなるか、過去、現在、未来を考えるようにしています。

その他、運動会やスポーツ大会、各種イベントに役員・班長が率先して参加し、楽しいということを他の会員にアピールしてもらっています。



## 西三島自治会

- ◆自治会長：橋本 秀晴
- ◆加入世帯数：1,150 世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：西那須野地区
- ◆特徴：昔この地域の大部分を占めていた農地には分譲住宅・集合住宅が建設され、住宅地に変貌し、若い世代が増加。また、老後をこの地で過ごそうとする世帯もある。近年の少子高齢化・核家族化は当地区においても例外ではなく、高齢化率 21%（H29）という状況である。

### 防犯・防災活動

#### ◇スクールガードボランティア（H18～現在）

平成 18 年に、三島小学校および三島小学校区の自治会と協議し、「三島小学校区子ども安全推進連絡会」を立ち上げ、下校時の見守りを行う『スクールガードボランティア』（SGB）として活動を開始しました。当時、ボランティアとして手を挙げた方は 233 名、西三島自治会内でも 52 名だったと聞いています。12 年を経過し、当初のメンバーも高齢化で引退された方もいますが、現在 22 名程の人数で月曜日から金曜日の下校時、天候にかかわらず下校時の見守りを行っています。



ボランティアの皆さんが子供たちに明るく声を掛け、挨拶を交わすことで、お互い親しみを感じ、安心してコミュニケーションを図ることができています。また、犯罪の抑止や交通安全意識が高まり、

地域の連帯感が生まれています。そして、子供たちにとっても、見守りの効果によって、感謝の気持ちを持って安心して暮らせる環境が整えられていると言えます。

#### ◇青パトによる防犯パトロール（H27～現在）

スクールガードボランティアの高齢化、人数減少により、見守り範囲を少しでも軽減するために、更には、三島地区住民の防犯対策の一環として、西三島自治会では車両での防犯活動ができないか検討を重ね、青色パトロール（青パト）を導入することになりました。

地域住民の寄付やボランティア運転手の協力を募り、車両の購入などの準備が整い、警察署からの許可もおりて、平成 27 年 4 月 21 日に西三島自治会による青色パトロールの出発式が行われました。

パトロールは、主に三島小学校と三島中学校の下校時間に合わせて巡回します。ボランティアの運転手は 21 名おりますが、スクールガードボランティアと兼務しているため、週に 2、3 回巡回を行っています。

また、年に 1 回、全国交通安全運動に合わせ、那須塩原警察署と西三島自治会防犯パトロール隊との合同パトロールも実施しています。



### 子どもたちのために自治会に加入を！

子どもたちの下校時の見守りや青パトによる地域防災活動、特に青パトを維持管理していくには経費が必要です。子どもたちの安全のためにもぜひ自治会への加入をお願いしたいと思います。

### ◇通学路安全確認とカーブミラー清掃

市主催の春の市民一斉美化運動と連動して、毎年、通学路安全確認とカーブミラー清掃を行っています。

この事業は、育成会と協働で、若いお父さんたちが通学路を見回り、カーブミラーを清掃点検し、その他危険な箇所がないか点検します。

作業を行う時は、ヘルメットの着用と周辺の車の通行等に気を付けながら安全面を考慮しています。グループを2班に分けて、数人で危険箇所を点検します。カーブミラーの割れや曲がりを発見したら、自治会長に連絡し、補修を依頼します。

この事業は育成会との協働で実施していることから、事業の際に出会う保護者の皆さんに他の自治会事業への参加も呼びかけ、自治会に加入していない方にはぜひ自治会に加入いただくよう案内をしています。

### 地域福祉活動～いきいき百歳体操～

元気なまちづくりを目指して健康寿命延伸に向けた事業の一環として、「高齢者ができる限り要介護状態に陥ることなく、健康で生き生きとした生活を送れるように支援する」ことを目的として、平成28年5月に『いきいき百歳体操』を展開することにしました。生き生き百歳体操は、高知市の理学療法士が開発した筋力運動にバランスと柔軟性をプラスした体操です。

いきいき百歳体操を継続することで、その後の体力測定において、ほとんどの方に改善が認められました。体力年齢の向上や転倒などのリスクも低減され、医療費削減に繋がっていると思われます。

いきいき百歳体操は、運動の効果もさることながら、公民館に集うことで、皆さんの憩いの場になり、顔見知りになります。毎週金曜日の午前10時から西三島公民館で30分程度の体操を行っています。

地域の皆さんが運動だけでなく、和やかに会話することで、脳の刺激になり、気分転換、ストレス解消のほか、住民通しの信頼関係が生まれ、効果が多くあります。

また、福祉祭りのバザーなどの売上金で、血圧計やAEDの設置をし、万が一に備えています。



### 地域福祉活動～いきいき子育てサロン～

幼児（主に未就学児）とその親を対象に月2回西三島公民館で「いきいき子育てサロン」を開催しています。このサロンは、ここに集う子どもたちと親、そしてサロンをサポートするスタッフ（年輩の方々）との親睦を図る『ひろば』作りを目的としています。

毎回、趣向を凝らしながら親子をお迎えしており、例えば、夏の暑いときには外にビニールプールを用意したり、12月にはお楽しみ会としてクリスマス会を開催し、プレゼントを用意したりしています。子どもたちの遊び道具も用意しており、子どもたち同士の遊びのほか、ちょっとした喫茶コーナーで小さい子どもを持つ親同士が会話をしたりやサポートする年輩の方々が子育ての悩みごとの相談に乗ったりもしており、楽しいひと時を過ごせるよう皆が協力し合っています。



サロンを通して、公民館に来ると楽しいことがあるということを知ってもらい、地域住民の方々に浸透すれば、自ずと自治会加入促進につながっていくと考えています。

## 南赤田自治会

- ◆自治会長：依田 孝
- ◆加入世帯数：225世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：西那須野地区
- ◆特徴：自治会のほぼ中央を約 1.5 kmにわたり塩原街道（旧国道 400 号）が通っており、その街道沿いを中心に存在するコンパクトにまとまった地区。

### 世代間交流事業

子供たち（幼児を含む）と高齢者、保護者、その他自治会員の皆さまが公民館に集まり、交流を図っています。

昔の遊びやカローリング、ビンゴゲーム等で楽しみ、また、ポップコーンや綿あめ等の無料配布に加えて、お昼にはおばあちゃん方手作りの「けんちんうどん」を全員で味わい、地域や世代間の交流を深めています。

年々子供の数が減っていく中で、子供たちにいかに多く参加してもらえるか、また、一般の会員の方々の参加率を上げることが一番苦労しています。対策としては、子供会育成会役員の方々へ協力依頼や福寿会、生きがいサロンの皆さんへ協力依頼を行いました。その成果もあり、今回は今までになく多くの方々に参加していただきました。

今後は、チラシの内容を工夫したり、行事が固定化しないように内容の変化や充実を図り、子供や一般の会員の方の参加が増えるよう工夫していきたいと考えています。



### 高齢者会食会事業

高齢者会食会事業は、平成〇〇年から開始した高齢者を対象とした事業です。

敬老会招待者や生きがいサロン会員の方々を健康長寿センターに招待し、温泉に入浴後、余興を行い、お昼には女性部役員が作ったけんちんうどんで昼食会を行い1日楽しく過ごします。

やはり、いかに多くの方に参加してもらえるか、参加者を増やすための取り組みが一番苦労しました。そのために、今年は、今まで実施していなかった余興（ボランティアによる三味線の演奏会）を取り入れ、宣伝を行いました。その結果、今までになく多くの方々に参加していただきました。

今後の課題としては、事業内容の周知を図り、更なる参加率の向上を図ること、また、足腰が悪く外出できない高齢者の送迎等も検討していきたいと考えています。



### 自治会活動活性化のために

南赤田自治会では、アパートの住人を除き、ほとんどの世帯が自治会に加入しています。

自治会活動を全世帯に知ってもらうため、年1回広報誌を発行し、全世帯に配布しています。広報誌は、文字をできる限り少なくし、写真を多く掲載するようにしています。また、自治会行事の参加率を上げるため、参加した人（応援、見学も含め）全員に参加賞を配布し、行事参加のきっかけ作りを試みました。来年の結果を検証したいと思っています。

## 北赤田自治会

- ◆自治会長：齋藤 新一（H29）  
久保 誠（H30）
- ◆加入世帯数：84世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：西那須野地区
- ◆特徴：生きがいサロンや百歳体操、見守り、祭りが盛んである。地域の団結力が強い。

### 自主防災会による防災訓練

自主防災会による防災訓練および那須塩原市防災訓練への参加を行っています。

防災訓練の内容は、防災機材の数量・作動・機能確認、消防署職員指導による救急救命訓練、自主防災会による防火DVD鑑賞などを実施しています。

自主防災会訓練では、防災活動班（情報班、避難誘導班等）に分かれ、防災機器の設置場所、数量を確認し、作動点検を行っています。また、公民館に設置してある消火器については、設置場所が適正かの確認も行っています。消火訓練、救命救急訓練では、いざという時の備えとして皆真剣に取り組んでいます。

### 地域ふれあい・福祉活動

#### 【氏神様の例大祭および運動会】

地域の老若男女みんなが集まって、グラウンドゴルフや焼きそば作り、ピンゴ大会、子ども相撲を楽しみます。



土俵作りやしめ縄作りも大変な作業ではありませんが、氏子も含めて楽しくやっています。

当日参加できなかった見守り対象のお年寄りには、班長が自宅に焼きそばを届けています。



【↑親子で作る焼きそば】

地域福祉活動として、生きがいサロンや百歳体操も盛んです。

生きがいサロンでお年寄りが作る団子汁や味噌汁、漬物等々さすがのおいしさです。

生きがいサロンの運営は、生きがいサロンの参加者が主体的に行っていて、各種手続き等支援は自治会が行っています。現在、生きがいサロンの支援は、会社を退職した役員が行っていますが、集まりごとに参加できる支援者をいかに継続して確保できるかが課題となっています。



【いきいき百歳体操の様子】

## 上赤田自治会

- ◆自治会長：鈴木 健司
- ◆加入世帯数：79世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：西那須野地区
- ◆特徴：昔ながらの世帯で形成された集落

### 秋祭り

秋祭りは、自治会役員が連携し、80歳以上の高齢者を招待して開催する、何十年も続く祭りです。平成29年度は、10月15日に開催し、焼き肉・焼きそば・けんちんうどん・ゲーム・抽選会などを行いました。



高齢者を招待しているため、高齢者の参加は多く、盛況でした。当日の天候が悪く、後半のイベントが中止しましたが、多くの方々に参加いただきました。

秋祭りは、自治会内のふれあいの場となり、とても自治会活動活性化にとっても有効な祭りとなっています。少子化傾向の中で、今後は、子供たちの参加を推進していきたいと考えています。



### 防犯・防災活動

防犯のため、防犯灯を設置し、維持管理を行っています。広範囲に照明が行き届くように、防犯灯周りの枝木を除去しています。

また、防災活動として、上赤田自治公民館の敷地内に防災倉庫と防災用砂置き場を新設しました。

防災倉庫には、スコップやライト、小型の発電機などを備蓄し、災害時に備えます。

防災用砂置き場には、災害時に土嚢を作れるよう日頃から砂を備蓄しています。



【↑防犯灯周辺の枝おろし】



【↑防災倉庫と砂置き場】



## 高柳自治会

- ◆自治会長：阿部 正夫
- ◆加入世帯数：320世帯（H30.4.1 現在）
- ◆自治会のエリア：西那須野地区
- ◆特徴：昔ながらの生産農家と中高年層、若年層の住宅で区分されている地区。

### 高柳自治会交流会

「高柳自治会交流会」は、毎年11月中旬に開催する自治会住民の交流イベントです。このイベントは、約15年続いており、当時の自治会長が、『地域で住民同士が交流する機会を作りたい』と「公民館まつり」として始めたものです。その後、「自治会交流会」として毎年恒例のイベントとして定着しています。

内容は、焼きそば、餅、うどん、おでんなどの食べ物の提供とバルーンアート、手品などの催し物、写真、盆栽などの趣味の展示などを行っています。

交流会当日は、子どもから高齢者まで多くの参加があり、平成29年度の参加者は約350名、平成30年度は約360名でした。

開催にあたっては、回覧でPRし、抽選券を世帯1枚配布しました。育成会を通して保護者にもPRしています。また、多くの住民の方に来ていただく工夫として、高齢者専用の席を用意するようにしています。

開催準備は、自治会役員、班長のほか、自主的に協力してくださる方が多く、総勢40名程でスムーズに行うことができました。

抽選会についても、住民の方の協力で、米、野菜、果物などの提供を受けて、賞品として実施しています。

この地域は、自治会行事に対してとても協力的な方が多く、行事の際も積極的に先に立って行動してくれるので、役員だけに負担がかかることなく、無理のない範囲で活動することができます。



### 廃品回収

各世帯に協力いただき、年3回廃品回収を実施しています。

回収品目は、新聞・雑誌・段ボール・缶類などです。

回収日の前に、回覧で日にちをお知らせし、当日朝に、各世帯が資源物を自宅前に出す方法で行われます。出された資源物を班長が軽トラックで回収し、自治公民館で集約し、業者に引き渡します。分別は、ごみ減量推進員が中心となって行われています。

平成29年度は、多くの世帯の協力があり、10万円を超える収益となりました。収益金は、自治会活動のために使用しています。



↑各世帯から回収した資源物を公民館で集約します

《発行》

那須塩原市自治会長連絡協議会  
那須塩原市企画部市民協働推進課

〒325-8501

那須塩原市共墾社 108-2

TEL 0287-62-7151

FAX 0287-62-7220

Mail [kyoumachi@city.nasushiobara.lg.jp](mailto:kyoumachi@city.nasushiobara.lg.jp)